日本最初の切手　**竜文切手**

茶

紺

赤

緑

日本で最初に郵便切手が発行されたのは、明治4（1871）年4月20日、日本の郵便制度が創業された日で、世界最初の切手「ペニーブラック」が発行されてから31年後のことでした。

発行されたのは、48文、100文、200文、500文の4種類（この当時の貨幣単位は「文」）で、向かい合った竜が描かれていることから「竜文切手」と呼ばれています。

郵政博物館
POSTAL MUSEUM JAPAN
〒131−8139　東京都墨田区押上1−1−2　東京スカイツリータウン・ソラマチ9階
TEL：03-6240-4311　http://www.postalmuseum.jp/

前島 密　提案の模様
明治3（1870）年

切手のデザインになぜ竜が描かれたのか？

前島 密は、明治3（1870）年6月2日に官便郵伝の提案には、梅花模様で周りを囲い、中央に金額を入れたデザインを添えていました（左・写真）。しかし、簡潔なこのデザインでは偽造されやすい等の理由から採用されませんでした。

当時は印刷の設備・技術も整っていなかったので、切手のデザイン・印刷は銅板彫刻師の松田敦朝（まつだ あつとも）に委託されました。松田は当時、政府から太政官札（お金）の印刷を委託されていました。

切手の製造が急を要していたことから、松田は当時の太政官札（下・写真）に使用されている「双竜」のデザインをとりいれることを政府に申し入れ、明治4年正月の決議によって竜文切手4種の発行が決定されました。

松田敦朝

竜文切手は1シート40枚で構成されており、当時はまだ原版を複製する技術がなかったため、同じ図案を40回、手で彫って作ったので、竜の爪など、少しずつ模様に違いがありました。

切手の印面は19.5mmの正方形で、日本切手の中では一番小さいです。ごく薄い和紙に印刷され、目打ちも裏のりもありません。当初、切手の再使用を防ぐために薄い紙を使用する予定でしたが、途中で前島 密が消印のことを知ったため紙の厚さが急きょ変更になる等、発行に至るまでに紆余曲折がありました。

竜文切手発行当時の郵便料金は距離に比例したものでしたが、2年後、全国統一料金制になりました。